釧新郷土芸術賞に輝く

受賞者の横顔

□中□

パ・ド・カトルを踊る早坂さん

バレエ

早坂　祥子さん(29)

（釧路市）

地元バレエ界をけん引

4歳から、一筋に

仲のよい友だちが通っていたのをきっかけに、4歳から大友尚子さんが主宰する「ナオコフェアリーバレエ」（当時、桜ケ岡バレエスタジオ）でバレエを始めた。ほかの習い事を始めてもバレエを優先してやめたり、自分の意志で通う回数を増やすなどバレエが大好きだった。中学や高校でも部活に入らず通っていた。

「バレエを続けたいのと、先生の手伝いがしたい」と高校卒業後はレッスンのない早い時間にアルバイトをして、バレエを続けている。高校生の時に日本バレエ協会の準会員、その後会員となって、3年前からは文化教室で講師として指導に当たっている。

バレエを始めてこれまで、白鳥の湖第3幕のグラン・パ・ド・ドゥやパ・ド・カトル、くるみ割り人形よりグラン・パ・ド・ドゥ、オーロラ姫のヴァリエーション、オリジナル作品「サーモンストーリー」のフルパートなど、スタジオの全作品に出演。

また道芸術文化フェスティバルやジュニアバレエファンタジーなどにも出演してきたほか、川畠成道さんの釧路公演では2006年と08年に共演した。

経験生かし指導も

「バレエを学べば学ぶほど、奥深さを実感している。また難しさを分かることで指導にも役立っている。踊るにしても指導するにしてもまだまだ勉強不足。これからもっと勉強して知識や技術を磨いていきたい」という。「今の自分があるのも先生がいてくれたおかげ」と感謝しながら、「将来先生のような立派な指導者になって、釧路のバレエ界の発展に貢献できるよう努力していきたい」と話している。

（黒田文夫）